

注1) 下記の選定フローは、施工実績を基にソイル下端位置での最小ラップ幅を375mm以上確保する条件で作成したものである。そのため、計測管理などの手法を採用し、最小ラップ幅を確認できる場合においては選定フローにとらわれず、別途適用性を判断する必要がある。また、当該現場の土質条件に特異性のある場合は、試験工事等により施工方法を選定する必要がある。

注2) 礫径については、地盤に存在する礫の実径を想定して検討する。(一般的に、ボーリング記事の3倍程度)

